

平成七年度

資料調査報告書 第二十三集

—— 旧鳥取藩士角田家文書 ——

鳥取県立博物館

序にかえて

資料調査報告書第二十三集では、「旧鳥取藩士角田家文書」について報告・紹介する。

角田家は、池田輝政時代から代々池田家に仕えた鳥取藩士で、とりわけ十代安処は、版籍奉還後の新しい藩体制の中で少参事の要職を務め、また廃藩置県後、鳥取士族が結集した共立社の社長を務めるなど、幕末から明治維新の激動の時代に、藩政の中核にあった人物である。このよ
うな重要な人物の資料が当館に寄贈され、ここに報告できることは、誠に喜ばしいかぎりである。本報告書の刊行により、この重要な資料を広く利用いただきたいと考えている。

末尾ながら、本館の事業を御理解いただき、資料を寄贈いただいた角田家に対し、感謝申し上げる次第である。

平成八年三月三十一日

鳥取県立博物館長

國岡靖夫

目次

序にかえて	1
目次	1
I 旧鳥取藩士角田家文書目録	2
II 解題	17
1 旧鳥取藩士角田家について	
2 角田家文書について	
III 資料写真	22
あとがき	23

I 旧鳥取藩士角田家文書目録

番号 資料名(内容) 作成者・受取人 年代 形態 数量

I 家(歴代履歴)

(三代一十九代)

- 1 黒田信濃用状(三代彦左衛門の養子に太次平) 黒田信濃 角田太次平宛 九月三日 切紙 一通
- 2 達書(四代権平養子七太夫に四拾俵六人扶持仰付) (宝曆八年) 切紙 一通
- 3 達書(五代七太夫養子左平太に四拾俵六人扶持仰付) (安永五年) 切紙 一通
- 4 達書(六代左平太養子又之丞に三拾五俵六人扶持仰付) (天明六年) 切紙 一通
- 5 達書(七代又右衛門養子権平に三拾五俵六人扶持仰付) (文化二年) 切紙 一通
- 6 達書(八代権平養子鉄三郎に三拾俵六人扶持仰付) (文政二年) 切紙 一通
- 7 荒尾駿河用状(家督御礼請のため登城の命) 荒尾駿河 角田鉄三郎・堀江万之助宛 (文政二年) 四月九日 切紙 一通
- 8 「九代角田鉄三郎関係達書」 明治一九年一月調 三通二括
- 9 達書(御麻珍中出精二付、金二百疋下賜) 角田鉄三郎宛 切紙 一通

- 10 角田鉄三郎季禮墓誌写 二宮元助 (一〇代安処関係) 切紙 一通
- 11 家君安処先生履歴辞令書第一之巻 (嘉永七年正月一明治二年五月) 巻子 一卷
- 12 家君安処先生履歴辞令書第二之巻 (明治二年五月一明治三年六月) 巻子 一卷
- 13 家君安処先生履歴辞令書第三之巻 (明治三年六月一明治一八年四月) 巻子 一卷
- 14 角田安処履歴書上 角田安処 明治一六年 蹊紙假綴 一冊
- 15 達書(鉄三郎実子兼三に七十俵六人扶持仰付) (弘化二年) 切紙 一通
- 16 荒尾左馬允用状(角田兼三、裕之丞と改名願承届) 荒尾左馬允 田淵寛一宛 弘化三年二月三日 切紙 一通
- 17 「宗門改請書」 角田裕之丞 田村伊左衛門・岡村喜兵衛宛 弘化四年九月 一紙 一通
- 18 「渡り過夫米年賦返弁願案」 角田鉄三郎 真田忠次郎・村山富藏宛 嘉永七年二月 一紙 一通
- 19 達書(角田鉄三郎儀、岩井郡田後村磯右衛門妹とよ二付、書付差出の命) (万延元年) 切紙 一通
- 20 「岩井郡田後村とよ召捕二付、返答書控」 角田鉄三郎 (万延元年) 八月二〇日 折紙 一通
- 21 達書(角田鉄三郎儀、岩井郡田後村磯右衛門妹とよ二付、差控) (万延元年) 切紙 一通
- 22 達書(角田鉄三郎差控御免) (万延元年) 切紙 一通

- 23 「鉄砲足怪源兵衛へ私借宅屋敷長屋貸置の断書」 角田捨藏 山下豊雄・井上勘兵衛宛 亥(文久三年) 二月 一紙 一通
- 24 達書(角田鉄三郎、石野六兵衛娘を妻とすること許可) 切紙 一通
- 25 間柄書(石野家縁叔人名) 脇差下賜目録 明治二年二月 一紙 一通
- 26 達書(娘ヲ永原半弥妻ニ致ス事許可) 知事職務取扱 角田少参事宛 辛未(明治四年) 四月一八日 一通
- 27 達書(角田安処慶心元年より明治二年迄略歴) 鳥取県皇典講究分所長依願免職辞令 皇典講究所 角田安処宛 明治一九年七月一九日 一通
- 28 「角田安処葬儀告文」 (一一代禮基関係) 明治庚午(三)年 折紙 一通
- 29 禮基命名書 明治庚午(三)年 折紙 一通
- 30 「尊敬太郎、坂田潤藏へ入門届書案」 角田捨藏 角田禮基履歴書 角田禮基 明治三五年三月迄 一冊
- 31 家督申付辞令 鳥取県権令三吉周亮 角田禮基宛 明治七年二月七日 一通
- 32 山林局備辞令 山林局 角田禮基宛 明治一五年四月一三日 一通
- 33 林制課辞令 山林局 備角田禮基宛 明治一五年四月一三日 一通
- 34 御用掛任命辞令 農商務省 角田禮基宛 一通

- 35 山林局事務取扱辞令 農商務省 明治一六年三月三日 一通
- 36 茨城山林事務所在勤辞令 農商務省 御用掛角田禮基宛 明治一六年三月三日 一通
- 37 任農商務十等属辞令 農商務大書記官前田正名 御用掛角田禮基宛 明治一七年八月一日 一通
- 38 事務勉勵二付、金六円下賜辞令 農商務省 十等属角田禮基宛 明治一七年二月三日 一通
- 39 第三掌林部事務主任兼勤口達辞令 所長心得増田穂風 十等属角田禮基宛 明治一八年二月一七日 一通
- 40 各掌林部長心得口達辞令 所長心得増田穂風 十等属角田禮基宛 明治一八年二月一七日 一通
- 41 茨城山林事務所第三掌林部事務主任兼勤免除口達辞令 所長心得増田穂風 十等属角田禮基宛 明治一八年六月一〇日 一通
- 42 庶務部長心得願開辞令 所長心得増田穂風 十等属角田禮基宛 明治一八年一月一九日 一通
- 43 任農商務九等属辞令 農商務大書記官宮島信吉 十等属角田禮基宛 明治一八年二月二三日 一通
- 44 任管林主事辞令 農商務省 角田禮基宛 明治一九年五月二二日 一通
- 45 農商務省茨城大林区署在勤辞令 農商務省 管林主事角田禮基宛 明治一九年五月二二日 一通

- 49 叙判任官八等給下級俸辭令 農商務省
 當林主事角田禮基宛 明治一九年六月八日 一通
- 50 特別勤勞ニ因リ金五円下賜辭令 農商務省
 當林主事角田禮基宛 明治一九年二月二八日 一通
- 51 特別勤勞ニ因リ金五円給与辭令 茨城大林区署
 當林主事角田禮基宛 明治一九年二月二八日 一通
- 52 金八円下賜辭令 農商務省 當林主事角田禮基宛
 明治二〇年一月一七日 一通
- 53 茨城大林区大宮小林区署長任命辭令 農商務省
 當林主事角田禮基宛 明治二〇年六月一三日 一通
- 54 中級俸下賜辭令 農商務省 當林主事角田禮基宛
 明治二〇年二月一六日 一通
- 55 青森大林区署在勤辭令 農商務省 當林主事角
 田禮基宛 明治二二年二月二日 一通
- 56 弘前派出所所在勤辭令 青森大林区署 當林主事角
 田禮基宛 明治二二年五月一三日 一通
- 57 婦署辭令 青森大林区署 當林主事角田禮基宛
 明治二二年八月五日 一通
- 58 陞叙判任官七等級下級俸辭令 農商務省
 當林主事角田禮基宛 明治二二年八月二三日 一通
- 59 兼任大林区署書記辭令 農商務省 當林主事角
 田禮基宛 明治二二年九月一日 一通
- 60 叙判任官七等級下級俸辭令 農商務省
 大林区署書記角田禮基宛 明治二三年九月一日 一通
- 71 青森大林区署會計主務官辭令 農商務省
 大林区署書記角田禮基宛 明治二三年三月二八日 一通
- 72 上級俸下賜辭令 農商務省
 當林主事兼大林区署書記角田禮基宛 明治二三年七月二日 一通
- 73 金貳拾五円下賜辭令 農商務省
 當林主事兼大林区署書記角田禮基宛 明治二三年二月二〇日 一通
- 74 六級俸下賜辭令 農商務省 大林区署書記角田禮
 基宛 明治二四年一月二日 一通
- 75 特別勤勞ニ因リ金拾円下賜辭令 農商務省
 當林主事兼大林区署書記角田禮基宛 明治二四年二月二日 一通
- 76 事務勉勵ニ付、金四円賞与辭令 農商務省
 大林区署書記角田禮基宛 明治二五年二月一七日 一通
- 77 青森大林区署主任收入官吏任命辭令 青森大林
 区署 大林区署書記角田禮基宛 明治二七年一月一日 一通
- 78 青森大林区署物品會計官吏退任辭令 青森大林
 区署 大林区署書記角田禮基宛 明治二七年三月二三日 一通
- 79 青森大林区署主任收入官吏退任辭令 青森大林
 区署 大林区署書記角田禮基宛 明治二七年三月二三日 一通

- 61 兼任農商務屬辭令 農商務省
 當林主事兼大林区署書記角田禮基宛 明治二三年九月一日 一通
- 62 叙判任官八等辭令 農商務省 農商務屬角田禮
 基宛 明治二三年九月一日 一通
- 63 山林局勤務辭令 農商務省 農商務屬角田禮基宛
 明治二三年九月一日 一通
- 64 青森大林区署在勤辭令 農商務省 農商務屬角田
 禮基宛 明治二三年九月一日 一通
- 65 青森大林区署會計主任辭令 山林局 農商務屬角
 田禮基宛 明治二三年九月一日 一通
- 66 青森大林区署會計主務辭令 農商務省
 大林区署書記角田禮基宛 明治二三年九月一日 一通
- 67 物品會計官辭令 青森大林区署
 大林区署書記角田禮基宛 明治二三年九月一日 一通
- 68 金拾貳円下賜辭令 農商務省
 當林主事兼大林区署書記角田禮基宛 明治二三年九月三日 一通
- 69 免兼官辭令 農商務省 大林区署書記兼農商務屬
 角田禮基宛 明治二三年二月二八日 一通
- 70 收入官吏任命辭令 青森大林区署
 大林区署書記角田禮基宛 明治二三年二月二八日 一通
- 80 高知大林区署在勤辭令 農商務省 角田禮基宛
 明治二七年四月一日 一通
- 81 高知大林区署主任收入官吏任命辭令 高知大林
 区署 大林区署書記角田禮基宛 明治二七年五月三日 一通
- 82 高知大林区署物品會計官吏任命辭令 高知大林
 区署 大林区署書記角田禮基宛 明治二八年四月二六日 一通
- 83 高知大林区署林産物品會計官吏任命辭令 高知大
 林区署 大林区署書記角田禮基宛 明治二八年四月二七日 一通
- 84 事務勉勵ニ付、金四円賞与辭令 農商務省
 當林主事角田禮基宛 明治二九年二月二〇日 一通
- 85 五級俸下賜辭令 農商務省 當林主事角田禮基
 宛 明治二九年九月二八日 一通
- 86 事務勉勵ニ付、金二円賞与辭令 農商務省
 當林主事角田禮基宛 明治三〇年一月七日 一通
- 87 石川大林区署在勤辭令 農商務省 角田禮基宛
 明治三〇年一月一八日 一通
- 88 免主任收入官吏辭令 高知大林区署 角田禮基
 宛 明治三〇年一月二二日 一通
- 89 署長上京隨行辭令 石川大林区署 當林主事角
 田禮基宛 明治三一年三月一日 一通
- 90 四級俸下賜辭令 農商務省 當林主事角田禮基
 宛 明治三一年三月一日 一通

91	依願免職辭令 農商務省 營林主事兼大林区署書記 角田禮基宛	明治三十一年三月一六日	一通
92	十三年在官ニ付、二百六十円下賜辭令 農商務省 元營林主事兼大林区署書記角田禮基宛	明治三十一年四月八日	一通
93	任御料局屬辭令 宮内省 角田禮基宛	明治三十一年一月三日	一通
94	御料局名古屋支庁在勤辭令 御料局 御料局屬角田禮基宛	明治三十一年一月三日	一通
95	給上級俸辭令 宮内省 御料局屬角田禮基宛	明治三十一年二月二五日	一通
96	職務勉勵ニ付、賞トシテ金三十円給与辭令 宮内省 御料局屬角田禮基宛	明治三十一年二月二四日	一通
97	庶務課土地調査掛任命辭令 御料局名古屋支庁 御料局屬角田禮基宛	明治三十四年三月六日	一通
98	叙三等級下級俸辭令 宮内省 御料局屬角田禮基宛	明治三十四年六月二日	一通
99	依願免本官辭令 宮内省 御料局屬角田禮基宛	明治三十五年一月二五日	一通
100	恩給願書控 元御料局屬角田禮基 宮内大臣田中光顯宛	明治三十五年二月一日	一通
101	會計検査院認可状(農商務省関係) 會計検査院長 角田禮基宛	明治三十四一三二年	一通

102	雇任命辭令 合資会社京華社 角田禮基宛	明治三十五年六月三日	一通
103	調査係勤務辭令 合資会社京華社 雇角田禮基宛	明治三十五年六月三日	一通
104	任書記辭令 合資会社京華社 雇角田禮基宛	明治三十五年八月二日	一通
105	文書係兼調査係任命辭令 合資会社京華社 書記角田禮基宛	明治三十五年八月二日	一通
106	月俸金拾貳円支給辭令 合資会社京華社 書記角田禮基宛	明治三十五年八月二日	一通
107	月俸金拾五円支給辭令 合資会社京華社 書記角田禮基宛	明治三十五年九月三日	一通
108	本店物品保管員任命辭令 合資会社京華社 書記角田禮基宛	明治三十五年一月二八日	一通
109	事務員任命辭令 合資会社京華社 角田禮基宛	明治三十五年二月一日	一通
110	管理部勤務辭令 合資会社京華社 事務員角田禮基宛	明治三十五年二月一日	一通
111	本店物品保管員任命辭令 合資会社京華社 事務員角田禮基宛	明治三十五年二月一日	一通
112	月俸金拾五円支給辭令 合資会社京華社 事務員角田禮基宛	明治三十五年二月一日	一通
113	金六円慰勞金給与辭令 合資会社京華社 事務員角田禮基宛	明治三十五年二月一日	一通
114	月俸金拾六円支給辭令 合資会社京華社	明治三十五年二月一日	一通

115	事務員角田禮基宛 總務部出納掛主任心得辭令 合資会社京華社 事務員角田禮基宛	明治三十六年二月二日	一通
116	什器及金櫃検査トシテ名古屋支店へ出張辭令 合資会社京華社 事務員角田禮基宛	明治三十六年五月一五日	一通
117	金拾五円慰勞金給与辭令 合資会社京華社 事務員角田禮基宛	明治三十六年五月二三日	一通
118	月俸金拾七円支給辭令 合資会社京華社 事務員角田禮基宛	明治三十六年一月一八日	一通
119	金拾壹円慰勞金給与辭令 合資会社京華社 事務員角田禮基宛	明治三十六年一月二三日	一通
120	營業部兼務辭令 合資会社京華社 事務員角田禮基宛	明治三十七年一月二四日	一通
121	依願解職辭令 合資会社京華社 事務員角田禮基宛	明治三十七年一月二六日	一通
122	角田敬太郎臍緒・産髮(水引付) (その他)	安政五年一〇月二三日	一点
123	角田ゆり臍緒	文久三年一月三日	一点
124	角田ゆり産髮(水引付)	文久三年一月三日	一点
125	おその産髮	明治一五年五月六日	一点
126	「退職許可辭令」 公立鳥取中学校 角田節次郎宛	明治一五年五月六日	一点
127	「宅地九畝ニ懸ル諸費」 明治一九年一月三〇日	卷紙	一通

128	金子出入記 角田	明治一九年二月	紙紙假綴 一冊
129	「金五円借用証」 角田はや 春菜宛	明治二〇年五月三〇日	紙紙 一通
130	「金拾五円借用証」 角田隼 堀尾吉顯宛	明治二〇年八月三〇日	紙紙 一通
131	足立舞書翰ひかえ(角田禮基妹順、足立養女のこゝと)	明治二〇年九月二三日	一通
132	「角田アヤ退学届」 角田隼 久松尋常小学校宛	明治二〇年九月一六日	一通
133	「亡跡相統願」(亡夫安死死去ニ付) 角田隼 邑美法美岩井郡長森田幹宛	明治二〇年九月一六日	一通
134	復斎田村先生略譜 角田禮基(湯本文彦朱註)	明治一一年一〇月	豎帳 一冊
135	衣笠家系譜(角田又右衛門関係) 村上晚節	明治一一年一〇月	卷紙 一通
136	「拜領屋敷改築断書控」 田中甚右衛門他三名宛	午年九月	一通
137	「拜領屋敷改築断書案」		三通一括
II 職務			
138	(日記・記録) 東都勤仕録 讓	文化五年	小横帳 二冊
139	御参府御道中御休泊御小休付 山田	文政二二年正月	小横帳 一冊
140	本牧日記 角田禮和		

141	達書(米年御參府御供の命)	角田鉄三郎宛	切紙一通
142	達書(興禪院様御代香御勤役代りニ付、長袴下賜)	角田鉄三郎宛	切紙一通
143	達書(当秋迄詰延)	角田鉄三郎宛	切紙二通
144	達書(米春迄詰延)	角田鉄三郎宛	切紙一通
145	達書(今日より御番入)	角田鉄三郎宛	切紙二通
146	達書(当年江戸御供、御先出立の命)	角田鉄三郎宛	切紙一通
147	山下豊三郎達書(見習御番仰付る)	角田鉄三郎宛	切紙一通
148	達書(詰江戸の命)	角田捨藏宛	切紙一通
149	達書(詰満ニ付、御国への暇)	角田捨藏宛	切紙一通
150	達書(四變鷹様御箸揃之節、御箸差上)	角田捨藏宛	切紙一通
151	達書(林善兵衛京都詰ニ付、去冬御用向引請)	角田捨藏宛	切紙一通
152	住山与右衛門用状(各来年より御加役仰付る)	角田鉄三郎・矢嶋新助宛	切紙一通
153	高沢省己用状(近々上使之節、御刀仰付る)	角田鉄三郎宛	切紙一通
154	山下豊三郎用状(明日御使之節、御控を仰付る)	角田鉄三郎宛	切紙一通
155	和田平太夫用状(御櫛役仰付る)	角田鉄三郎宛	切紙一通

156	落合金之助・大嶋治兵衛・岸本分右衛門用状	角田鉄三郎宛	切紙一通
157	落合金之助・大嶋治兵衛・岸本分右衛門用状	角田鉄三郎宛	切紙一通
158	落合金之助・岸本分右衛門用状(頂戴品袴廻す)	角田鉄三郎宛	切紙一通
159	菅沼源次郎・大嶋治兵衛用状(頂戴品廻す)	角田鉄三郎宛	切紙一通
160	土肥兵太夫・大坪周藏・清水兵太郎用状	角田鉄三郎宛	切紙一通
161	大坪周藏・清水兵太郎・景山加那次郎用状	角田鉄三郎宛	切紙一通
162	大坪周藏・清水兵太郎・景山加那次郎用状	角田鉄三郎宛	切紙一通
163	大坪周藏・清水兵太郎・景山加那次郎用状	角田鉄三郎宛	切紙一通
164	大坪周藏・清水兵太郎・橋本準輔用状	角田鉄三郎宛	切紙一通
165	大坪周藏・清水兵太郎・橋本準輔用状	角田鉄三郎宛	切紙一通
166	大坪周藏・清水兵太郎・橋本準輔用状	角田鉄三郎宛	切紙一通

167	大坪周藏・橋本準輔・須知主鈴用状	角田鉄三郎宛	切紙一通
168	荒尾但馬達書(采岳院様十七回忌法事中、相詰の事)	角田捨藏宛	切紙一通
169	鶴殿主水介達書(長討一番手のため貸馬一匹渡す)	角田捨藏宛	切紙一通
170	荒尾千葉之介御用召状	角田捨藏宛	切紙一通
171	荒尾千葉之介御用召状	角田捨藏宛	切紙一通
172	荒尾千葉之介御用召状	角田捨藏宛	切紙一通
173	荒尾千葉之介御用召状	角田捨藏宛	切紙一通
174	鶴殿主水介御用召状	角田捨藏宛	切紙一通
175	鶴殿主水介御用召状	角田捨藏宛	切紙一通
176	弁務御用召状	角田捨藏宛	切紙一通
177	弁務御用召状	角田捨藏宛	切紙一通
178	弁務御用召状	角田捨藏宛	切紙一通
179	弁務御用召状	角田捨藏宛	切紙一通
180	公用雜記	角田捨藏宛	小横帳一冊
181	勤仕録	角田捨藏宛	小横帳一冊
182	御出勢雜記并心覚	角田捨藏宛	小横帳一冊
183	御廻しニ相成候糶米・塩・味噌・雜物之控	角田捨藏宛	小横帳一冊

184	出張中日記并金銀出納	角田(捨藏)	小横帳一冊
185	忝番手御人数帳	角田禮和(捨藏)	小横帳一冊
186	忝番手御人数帳	角田氏(捨藏)	小横帳一冊
187	交代二番手御人数帳	角田(捨藏)	小横帳一冊
188	陣小屋坪割(小屋面積・米味噌等分配のこと)	角田(捨藏)	一枚
189	米子―出雲間絵図	角田(捨藏)	四枚括
190	征長関係略絵図	角田禮和(捨藏)	小横帳一冊
191	諸通達類写	角田禮和(捨藏)	七点括
192	嘉永六丑年被仰出写し	角田(捨藏)	卷紙一通
193	異国船渡来ニ付き御意書写	角田(捨藏)	切紙一通
194	家中家来人別書付差出の命	角田(捨藏)	切紙一通
195	武辺覚悟・武備充実の論書	角田(捨藏)	切紙一通
196	家中召抱人定	角田(捨藏)	切紙一通
197	達書写(不時御上京ニ付御定)	角田(捨藏)	切紙一通
198	周旋方への論書写	角田(捨藏)	切紙一通
199	攘夷期限の勅書写	角田(捨藏)	折紙一通

218	217	216	215	214	213	212	211	210	209	208	207	206	205	204	203	202	201	200
〔武内宿弥関係記事抜書〕(因幡志・大日本史等よ)	宇倍神社由来記抜粹	國幣中社宇倍神社之図 西橋景真画	宇倍神社双履跡壇場碑石建築廣告 宮下村上山与平・奥谷村秋田勝三郎	宇倍神社建築寄附廣告 西橋景真	宇倍神社建築寄附廣告 西橋景真	〔宇倍神社関係建議書等控〕 宮司角田安処	〔角田少参事東行之節供連控〕	〔作事二付、達書寫〕辰(明治元年)閏四月二八日	〔明治二年七月八日新政府高官名簿〕 明治二年	〔行政官通達寫〕(金札割渡の事) 六月	〔會計司執事・副執事心得書寫〕	〔政局簽寫〕 巳(明治二年)五月	〔藩治職制改革告諭寫〕 池田御官名(慶徳)	〔天朝御一新二付、旧弊改革趣意書寫〕 (明治元年)閏四月	〔臨時出張二付、達書寫〕	〔幕府達書寫〕	軍中條目(長州戦争時のものか)	〔長州追討二付、三案〕
一冊	一冊	一冊	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通
紙綴	紙綴	木版	木版	木版	木版	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴

237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224	223	222	221	220	219	
〔屋敷平面図〕	〔淡路守様御座敷飯御絵図〕 宣鋪藏	〔芳心寺平面図〕(藩主仏詣用) 宣鋪藏	御道中御休泊(江戸一鳥取の宿場・本陣等)	〔御平生御召御定断簡〕	〔在国中炭定・当時佩刀書上等〕	〔上野寛永寺参詣作法〕	〔遣わされ物書上〕(前欠) 天保六一二年	〔御国御持御提物帳〕	〔昼番・夜番勤務心得〕	毎月御精進日	御駕籠供奉心得	〔勤中心得書〕(前欠)	御法号記(將軍家・池田家) 讓寫	池田家御両敬(縁叔大名書上) (角田)禮和	清和源氏池田(池田家系譜) 仰風堂	〔鳥取県再置二付、建白書案〕 明治一四年七月	〔鳥取県再置二付、建白書案〕 角田安処	共立学舎への論告 池田慶徳・池田輝知	共立学舎役員宛 (明治七年)七月
一冊	一冊	一冊	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通
紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴

245	244	243	242	241	240	239	238	III	249	248	247	246	250	251	252
〔印墨〕(印章を押ししたもの)	〔葉法類〕	茶入甲冑事(大内家茶入・源義経甲冑の由緒)	〔甲冑各部名称図〕	十八史略略字引 角田安処	保字美(法美郡郷村帳)	葬祭之次第	〔元日朝祝膳〕	書状	(角田安処宛池田家関係) 井上環書状(五位様御職中御世話二付、袴地下さる) 角田捨藏宛 八月四日	河崎真胤書状(御分家之儀出願云々) 角田安処宛 七月一六日	片山宥・稲村昇六書状(池田輝知思召により酒贈る) 角田捨藏宛 閏一〇月朔日	井上環書状(贈正二位殿御遺物として八丈縮巻反贈る) 角田安処宛 一二月七日	高木俊彦書状(池田輝知より山鳥他下賜) 角田安処宛 四月三日	高木俊彦書状(御誕生様御飲として鯛贈る) 角田安処宛 六月二九日	高木俊彦書状(長柄傘遣わさる) 角田安処宛 八月一九日
一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通
紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴

253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264
高木俊彦書状(近火見舞一円を廻す) 角田安処宛 一月二八日	高木俊彦書状(徳国命へ献備金の事) 角田安処宛 四月七日	田中精書状(紫雲様卒去の報) 角田安処宛 五月二七日	土肥莠書状(紫雲様東京発途二付、置物遣わさる) 角田安処宛 五月一六日	(角田安処宛島根県へ引継事務関係) 井上鉄弥太書状(倉吉警察出張所より物品引渡二付) 角田安処宛 明治九年九月二二日	井上鉄弥太書状(米子着の報、引渡物品の件) 角田警部官(安処)宛 九月一五日	倉吉警察出張所岩本警部書状(当出張所引渡事務) 鳥取各警部宛 九月一三日	河越重喬公用書状(米子出張所より、物品御廻しの件) 元鳥取県第四課角田安処宛 九月一八日	柳房長公用書状(米子出張先より、物品取調の件) 角田安処宛 明治九年九月七日	世良某書状(榊藤六抵当の事) 角田安処宛 九月三〇日	世良・海老沢書状(上納金の事) 角田(安処)宛 一〇月二四日	海老沢廉書状(上納金滞納二付云々)
一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通
紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴	紙綴

292	河田景与書状(来臨の際失敬の断り)	四月二日	一通
	角田捨藏宛		
293	国富信也・石場景夫書状(昨日の御礼、料理代廻す)	六月二〇日	一通
	角田捨藏宛		
294	四宮少参事書状(小監察差出ニ付)	六月七日	一通
	角田少参事(安処)宛		
295	四宮一言書状(小弟退願書の事)	八月八日	一通
	角田 禮和宛		
296	田村甚左衛門書状(陣羽織の事)	正月二日	一通
	角田 鉄三郎宛		
297	田村甚左衛門書状(新年祝詞)	正月二日	一通
	角田 鉄三郎宛		
298	田村甚左衛門書状(陣羽織出来)	正月二日	一通
	角田 鉄三郎宛		
299	田村甚左衛門書状(玉子・かつおぶし送る)	正月二五日	一通
	角田 鉄三郎宛		
300	田村甚左衛門書状(村上祖母よりの品送る)	二月三日	一通
	角田 鉄三郎宛		
301	田村甚左衛門書状(注文の刀送る)	二月二日	一通
	角田 鉄三郎宛		
302	田村甚左衛門書状(短刀御返し之事)	二月二日	一通
	角田 鉄三郎宛		
303	田村甚左衛門書状(縁談整う)	三月二〇日	一通
	角田 鉄三郎宛		
304	田村甚左衛門書状(鉄砲台尋之書借用)		一通

305	田村貞彦書状(退願書の事)	七月九日	一通
	角田 鉄三郎宛		
306	田村貞彦書状(五両御廻しの事)	三月二四日	一通
	角田 鉄三郎宛		
307	田村貞彦書状(贈品の礼)	七月五日	一通
	角田 鉄三郎宛		
308	田村貞彦書状(贈品の礼)	正月七日	一通
	角田 捨藏宛		
309	田村貞彦書状(贈品の礼)	六月朔日	一通
	角田 捨藏宛		
310	田村貞彦書状(贈品の礼)	八月二六日	一通
	角田 捨藏宛		
311	津田某書状(中元の鮎御礼)	七月二日	一通
	角田 捨藏宛		
312	土肥謙藏書状(三月中には大樹上落、など)	二月七日	一通
	角田 捨藏宛		
313	堀庄二郎書状(学校文場学正となったことを報ず)	一月八日	一通
	角田 鉄三郎宛		
314	堀庄二郎書状(新年祝詞)	正月四日	一通
	角田 鉄三郎宛		
315	村上叔母書状	三月一九日	一通
	角田 捨藏宛		
316	江陽痴叟書状(鮮鯛の御礼)	一月三〇日	一通
	角田 捨藏宛		
317	江陽痴叟書状	二月二〇日	一通
	角田 捨藏宛		
318	江陽痴叟書状(肴の御礼)		一通
	角田 捨藏宛		
319	淳朴小子書状(韓信の故事から時勢を述べる)		一通

276	明石友右衛門書状	一月九日	一通
	角田 鉄三郎宛		
275	明石友右衛門書状(鳥取日照りの事)	一月七日	一通
	角田 鉄三郎宛		
274	明石友右衛門書状(鳥取の近況を伝える)	二月三日	一通
	角田 鉄三郎宛		
273	明石友右衛門書状(早い帰園をのぞむ)	七月五日	一通
	角田 鉄三郎宛		
272	明石友右衛門書状(当地の氣候)	六月二〇日	一通
	角田 鉄三郎宛		
271	明石友右衛門書状(肴の御礼)	四月五日	一通
	角田 鉄三郎宛		
270	明石友右衛門書状(祝詞の返書)	二月四日	一通
	角田 鉄三郎宛		
269	明石友右衛門書状(祝詞の返書、諸品高値の事)	正月二八日	一通
	角田 鉄三郎宛		
268	角田安処書状(村瀬元旦免職の件、返書共)	一月四日	一通
	藤正健・吉岡正臣宛		
267	藤正健書状(米子常備金の事)	一月一日	一通
	角田安処宛		
266	藤正健書状(本日不参の断り)	九月三日	一通
	角田安処宛		
265	森本某書状(旧県事務引継ニ付)	九月二四日	一通
	角田警部(安処)宛		

277	明石友右衛門書状(贈品の礼)	三月二日	一通
	角田 捨藏宛		
278	明石友右衛門書状(不参の断り)	四月二日	一通
	角田 捨藏宛		
279	明石友右衛門書状(不参の断り)	二月五日	一通
	角田 捨藏宛		
280	明石友右衛門書状(肴の御礼)	二月五日	一通
	角田 捨藏宛		
281	明石友右衛門書状(素餐差上たい)	七月四日	一通
	角田 捨藏宛		
282	明石友右衛門書状(先日訪問の節失敬のわび)	二月二五日	一通
	角田 捨藏宛		
283	大受楼(明石友右衛門)書状(御馳走御礼)	二月二三日	一通
	角田 捨藏宛		
284	足立無事介書状(江戸近況を報じる)	五月六日・六月一九日	二通
	角田 捨藏宛		
285	池田徳定書状(改年の慶事)	正月二七日	一通
	角田 少参事宛		
286	池田徳定書状(改年の慶事)	正月二七日	一通
	角田 少参事宛		
287	岩崎雪松書状(揮毫を願う)	二月朔日	一通
	角田 少参事宛		
288	小川海・田村成俊書状(田村元敬金沢山林官免職の件)	九月二日	一通
	河崎半内・村上晚節・角田安処・田刈寛一宛		
289	沖某書状(民政司費用書廻す)	一月三日	一通
	角田賢台(安処)宛		

320	大受賢兒宛 某書狀(禁門の変後の情勢を伝える)	(元治元年) 七月二十七日	一通
321	某書狀(扇子廻す)	大受先生宛 二月四日	一通
322	某書狀(角田)捨藏宛	二月三日	一通
323	(角田禮基宛) 田村貞彦書狀(竹里館の詩書損に付、他日認直す)	九月六日	一通
324	(角田)敬太郎宛 角田捨藏書狀(近況報告)	五月七日	一通
325	(角田)禮基宛 角田禮和書狀(寄宿に付き心得)	正月二日	一通
326	高橋琢也書狀(青森在勤中懇情への記念品・礼状)	明治二十七年二月二五日	一通
327	堀尾晴光書狀(出征の命を受ける)	明治三十七年四月二〇日	一通
328	堀尾晴光書狀(軍事郵便、宇品港出帆)	明治三十七年六月二五日	一通
329	堀尾晴光書狀(軍事郵便、岫巖兵站病院より)	明治三十七年八月二五日	一通
330	堀尾晴光書(軍事郵便) 角田禮基宛	明治三十七年	三通
331	(その他) 角田又右衛門書狀(角田)鉄三郎宛	三月二四日	一通
343	美人相之卷 小谷平太夫(流祖齋藤安守好玄) 角田七太夫(又右衛門)宛	寛政四年七月 卷子一卷 寛政四年八月 卷子一卷	一卷
344	弓道軍要之卷 角田七太夫政英(又右衛門)	寛政四年一月 卷子一卷	一卷
345	軍馬心得之卷 角田七太夫政英(又右衛門)	寛政四年一月 卷子一卷	一卷
346	〔兵法卷物〕 角田七太夫政英(又右衛門)	寛政四年一月 卷子一卷	一卷
347	砲術心得之卷 角田七太夫政英(又右衛門)	寛政四年一月 卷子一卷	一卷
348	刺甲刀軍功中段目録 遠藤十太夫保胤 堀新之丞宛	寛政九年二月 卷子一卷	一卷
349	初段授与秘軸目録 遠藤保胤 堀直林士宛	寛政十一年三月 切紙一通	一通
350	劍術観学之卷 堀利藏宛	寛政十一年三月 卷子一卷	一卷
351	弓道惣目録 衣笠定右衛門舍政 角田又右衛門宛	享和元年三月 卷子一卷	一卷
352	決拾之卷 衣笠定右衛門舍政 角田又右衛門宛	享和元年三月 卷子一卷	一卷
353	九字之卷 衣笠定右衛門舍政 角田又右衛門宛	享和元年九月 卷子一卷	一卷
354	繁藤之卷 衣笠定右衛門舍政 角田又右衛門宛	享和元年一月 卷子一卷	一卷
355	一貫流座立目録 能勢権左衛門 角田鉄三郎宛	角田鉄三郎宛	一卷

356	極秘書砲術荻野流火矢之卷 角田鉄三郎	文政八年正月 卷紙一通	一通
357	荻野流拾遺銃免状 角田裕之丞宛 津田伝藏長発	嘉永五年正月 卷子一卷	一卷
358	荻野流銃砲秘書百箇条弁書 角田鉄三郎	嘉永五年五月 竖帳一冊	一冊
359	荻野流砲術百ヶ条目録全 一貫流刀術伝書目録 遠藤平太郎以貫	嘉永六年二月 切紙二通	二通
360	角田鉄三郎宛	嘉永七年八月 竖帳一冊	一冊
361	伝書(受領伝書目録) 角田鉄三郎 嘉永七年八月	西洋流奥儀大鑑 津田伝藏長発	一冊
362	角田鉄三郎宛	嘉永七年二月 竖帳一冊	一冊
363	大銃免状(荻野流) 角田鉄三郎宛 津田伝藏長発	安政二年正月 卷子一卷	一卷
364	乱打免状(荻野流) 角田鉄三郎宛 津田伝藏長発	安政二年正月 折紙一通	一通
365	荻野流相伝前書 津田伝藏長発 角田鉄三郎宛	安政二年八月 一紙一通	一通
366	〔大坪本流前書之秘決〕那須吉之丞孝之 角田鉄三郎宛	安政五年正月 卷子一卷	一卷
367	要務集聞書一(津田優也先生講義記録) 角田禮和	文久三年 横半帳一冊	一冊
368	要務集聞書二(津田優也先生講義記録) 角田禮和	文久四年二月 小横半帳一冊	一冊
332	兵法雄鑑之卷 安田七左衛門成信 小川紋三郎宛	寛保二年八月 卷子一卷	一卷
333	一伝流転繩之術伝書 吉村新六頼茂 小川紋三郎宛	延享二年六月 折紙一通	一通
334	当流甲州之軍法伝書 安田七左衛門成信 角田紋三郎宛	延享三年二月 折紙一通	一通
335	今枝流入門免状(劍術) 浅田午之丞昌福 角田亦之丞宛	天明六年二月 切紙一通	一通
336	心勝流直槍目録(心勝流中極意之卷) 平井郷左衛門 角田又之丞(又右衛門)宛	天明七年正月 卷子一卷	一卷
337	夢想恭觀智見之卷 浅田午之丞昌福 角田又之丞(又右衛門)宛	天明七年正月 卷子一卷	一卷
338	今枝流劍名之卷全 浅田午之丞昌福 角田又之丞(又右衛門)宛	天明七年正月 卷子一卷	一卷
339	猪目之卷全 浅田午之丞昌福 角田又之丞(又右衛門)宛	天明八年正月 卷子一卷	一卷
340	雖井蛙流劍名目録全(雖井蛙流平法夢想萬勝之卷) 衣笠定右衛門重政 角田又之丞(又右衛門)	寛政元年正月 卷子一卷	一卷
341	当流起請之卷(入門者の起請文) 堀利之助以 下一二名	寛政二年一文化八年 卷子一卷	一卷
342	妙要砲術之卷 小谷平太夫尉吉元(流祖中村弥左衛門高吉) 角田七太夫(又右衛門)宛	角田七太夫(又右衛門)宛	一通

369	要務集聞書三(津田優也先生講義記録)				
	角田禮和	文久四年三月一九日	小横帳	一冊	
370	伝授目録写し并槍刀平業名目	角田禮和			
		寅六月	小横帳	一冊	
371	「灌頂伝授之次第」	角田禮和	縦帳	一冊	
	古伝書(鎗術 真利開元之巻他、明石友右衛門相伝の古書)				
372	利方目録八卷(六五ヶ条)		横半帳	一冊	
373	「利方目録」(一四二ヶ条)		卷子	一巻	
374	軍術集(一三六ヶ条)		卷子	一巻	
375	劍術入門起請文雛形		切紙	二通	
376	「伝書目録」(司握革・革包)				
377	「伝書目録」(出陣之時・帰陣之時・討死之時)				
378	「手甲結び雛形」				
379	武術雜				
			六點二括		
V 書画等					
380	角田安処書(田村貞彦に代りて宮原積へ贈る書)		軸	一幅	
381	堀熙明書「大受楼説」・湯本文珍書合装		軸	一幅	
382	後三年絵巻写		卷子	一巻	
383	肖像写真				
384	日の丸軍扇			一枚	

II 解題

ここに報告・紹介する資料は、旧鳥取藩士角田家に伝来し、御子孫で京都府宮津市在住の角田阿つ子氏より、平成六年二月当館に寄贈いただいた資料群である。角田家歴代の内、一〇代安処は、版籍奉還後の鳥取藩少参事、また廃藩後は鳥取の士族結社共立社の社長を務めるなど、幕末維新期の鳥取で重要な位置を占めた人物である。本資料のほとんどが、この安処に関する資料であり、幕末から明治初年の鳥取藩・鳥取県の動向を知る上で、貴重な資料であると言える。もとより不十分な調査ではあるが、ここに報告し、本資料を広く利用していただきたいと考えている。

1 旧鳥取藩士角田家について

当館が所蔵する「角田安処家譜」(鳥取藩政資料)によれば、角田家は初代角田半之丞が、池田輝政の姫路在城時代に播磨国で徒(かち)として召出され、その後、池田忠雄に従って備前岡山に移り、寛永九年(一六三二)の御国替えによって鳥取に移った。その後、二代七太夫が鳥取御蔵奉行の勤功により士身分となり、以後一〇代安処の時廃藩を迎えるまで、代々鳥取藩に仕えた。角田家歴代およびその主な職務・没年は以下のとおりである。

- 初代 半之丞 寛文六年(一六六六)死去(九六才)
- 二代 七太夫 鳥取御蔵奉行・浮米奉行・在普請奉行
- 宝永四年(一七〇七)死去
- 三代 彦左衛門 宝永六年(一七〇九)死去

(彦之丞)

- 四代 権平 御仲小姓・御徒頭・御近習
(多次郎・平四郎) 宝暦八年(一七五八)死去
- 五代 七太夫 銀札場御目付・大勘定役・在方御勘定役
(紋三郎) 安永五年(一七七六)死去
- 六代 佐平太 養子(実家不明)
御仲小姓
天明六年(一七八六)隠居(同年死去か)
- 七代 又之丞 養子(倉吉組衣笠定右衛門二男)
(又右衛門) 御仲小姓
文化二二(一八一五)年死去
- 八代 権平 御客番
文政二年(一八一九)死去
- 九代 鉄三郎 養子(村上潜龍二男)
御客番・表小姓・御近習
弘化元年(一八四四)死去
- 十代 安処 (棄三・捨之丞・鉄三郎・捨蔵)
御目付・御側御用人・鳥取藩少参事
廃藩後、一等警部・宇倍神社宮司等

角田家の知行高(扶持米高)は、二代の時四人扶持三〇俵、五代の時六人扶持四五俵であったが、以後養子の度に五俵ずつ減額され、九代の時六人扶持三〇俵となった。九代鉄三郎は、その勤功により六人扶持七〇俵まで加増され、さらに十代安処は、明治二年(一八六九)に高二百石に直され、他に役料七〇石が与えられた。以上のように、角田家の知

行高は変動を繰り返しているが、総じて言えば、池田家家臣団の中心に位置する家といえる。

九代鉄三郎は、藩医村上潜龍の二男で、その実兄は幕末の鳥取藩において中老として政治的に重要な役割を果たした田村貞彦である。鉄三郎はその人脈もあってか、扶持米高を上昇させており、さらに息子の十代安処は異例の出世を遂げている。鉄三郎を養子に迎えたことが、角田家にとって大きな転機となっている。

一〇代安処は、弘化三年（一八四五）一三歳で家督を継いだ。安処二二歳の嘉永七年（一八五四）、ペリーの二度目の来航があり、鳥取藩は幕府から江戸湾警備の一環として本牧（現横浜市）の警備を命じられ、安処も本牧に出張した。二月に及ぶ警備の中で、安処はしばしばペリー艦隊を見ている（資料140）。この経験は、若い安処に大きな衝撃を与えたものと思われる。また、当時安処は、藩の軍制改革に当たっていた津田伝兵衛から荻野流の砲術を学んでいたが、津田も警備のため本牧に出向いていた。津田はその後、田村貞彦・堀庄次郎・中野良助とともに、鳥取藩安政改革の中心人物として活躍し、このグループは後の鳥取藩尊王攘夷派につながっていく。安処は若い頃から、伯父田村貞彦・師津田伝兵衛など改革派との関係が深く、この人間関係が安処の思想形成に大きな影響を与えていると思われる。

安処は帰国後の同年一二月、藩校である尚徳館の助教を命じられている。翌安政二年（一八五五）に表小姓を命じられ、安政六年御近習に進んだ。しかし、万延元年（一八六〇）八月に無宿者を召し使っていたとして「差控」を命じられ、しばらく謹慎の処分を受けた。文久二年（一八六二）九月に、藩主の子女の用務を担当する御部屋御付助役を命じられて公務に復帰する。元治元年（一八六四）四月には、御勘定御吟味役

を命じられ、一年間江戸に詰めた。しかしこの江戸詰の間に、鳥取藩の政治状況は大きく変わった。禁門の変後の長州藩への対応をめぐって藩論が分裂し、元治元年九月、長州への出兵を可とした御目付堀庄次郎が、急進尊攘派の沖剛介・増井熊太によって暗殺され、この事件を契機に、藩主池田慶徳は藩内の尊攘派を要職から斥け、その中には政治加談であった伯父の田村貞彦も含まれていた。安処は江戸にいたためか、それに連座することなく、慶応元年（一八六五）五月の帰国後、長州への出兵の一番手小荷方を命じられ、翌二年六月に出兵して石見国まで出張、閏一〇月まで滞陣した。三年七月には武器製造役所の長である武器奉行（二名の内の一人）に命じられている。しかし、いずれも実務的な役職で、藩の方向を左右する位置にはいなかった。

安処の地位が一変するのは、慶応四年（一八六八）一月の鳥羽伏見の戦い以後である。官軍側の勝利によって、鳥取藩では再びかつての尊攘派が要職に復帰する。安処は二月三日御側役を命じられ、藩主側近に仕えることとなり、さらに四月二四日には御目付役に転じ、七月三日御側御用人見習、八月一日同助役、翌明治二年（一八六九）二月に御側御用人本役に進み、藩政の中核に入っている。そして同年五月、当時東京にあった安処は、版籍奉還による新体制の中で、藩財政を扱う会計司の長である会計執事となり、藩政を総管する施政局で執政に次ぐ参政の御用取扱も命じられた（ただし、参政御用取扱は六月に免じられた）。八月、新政府の布告を受けて藩制が改正される。新たな藩制では、以前の施政局である政庁と、神務・民政・会計・兵制・刑法・総字の六局が置かれ、政庁には藩知事のもとに大参事三名、権大参事一名、少参事一名が、六局にはそれぞれ少参事一名が配置され、安処は少参事として会計司を総管した。安処はこの時期、金策のため京阪・東京と鳥取を往復している。

三年二月分課会計から兵制に転じ、さらに九月分課弁務となり、米子に出張し、米子での藩務の総管を命じられた。しかし、このころ安処は病気のため辞職を願ったようで、一二月に分課を免じられている。そして、四年七月の廃藩を迎え、免官となった。

廃藩後しばらくの動静は不明であるが、安処は明治七年に設立された鳥取士族の結社共立社の社長に推されている。共立社は、鳥取の主だった士族のほとんどが参加した団体であるが、後に述べるように設立当時から対立が絶えなかった。その中で安処が社長に推されたのは、安処が両派の中間的位置にあり、両派からともに信望を得ていたためと思われる。しかし、両派の対立が深まるにつれ、安処の存在は鳥取士族の間では影が薄くなったようで、主だった政治的行動は見られない。なお、角田家の家長としては、この年一二月に家督を長男禮基に譲り、隠居が許可されている。

明治九年五月、鳥取県一等警部に任命され再び官についたが、同年八月の鳥取県の島根県への併合により辞職、ただし十一月まで引き継ぎ事務に当たっている。その後明治一四年四月に因幡国一宮である宇倍神社宮司に任じられ、同時に鳥取県皇典講究分所長を明治一九年七月まで務めている。

本資料の中には、安処の子禮基に関する資料も含まれている。禮基は、明治一五年に農商務省の山林局に奉職後、茨城・青森・高知・石川の大林区署を転任し、さらに同三十一年には宮内省御料局名古屋支庁勤務に転じ、三五年退任している。安処にはその他に、堀尾家の養子となった清光、佐治家に嫁いだあやの二人の子があった。寄贈者のあつ子氏は、禮基の孫禮尚氏の夫人である。

2 角田家文書について

文書の総数は三八四点上り、資料はその内容から、

- 1 家の歴代に関するもの
- 2 歴代とりわけ十代安処の職務に関するもの
- 3 角田家に贈られた書状
- 4 歴代の武術に関するもの
- 5 書画等

に分類し、整理した。

1 家 に分類した文書は、歴代の家督相続の際の達書、一〇代安処関係の達書や履歴書、一一代禮基への辞令類等一三七点である。

その内、11・12・13は一〇代安処が与えられた藩の達書や辞令をまとめて、年代順に卷子装にしている。

31・121は、一一代禮基に関する資料で、辞令類がよく保存されている。

2 職務 は、安処宛の藩庁からの達書や、職務上記録した日記や通達類の写しである。

この内140本牧日記は、先に記したように嘉永七年（一八五四）の江戸湾本牧警備の際の安処の私的な日記であり、日々の行動や藩の指示・異国船の動きなどが具体的に記されて興味深い資料である。

180・191は、「石州出張書類」と書かれた袋に一括して収められていたもので、慶応二年（一八六六）の第二次長州戦争の際、安処が鳥取藩一番手として石見国まで出張した時の記録である。182・184は、出張の兵士の待遇が具体的にわかる好資料で、例えば兵士一人当たりの一日の食料が「米七合五夕・梅干三つ・塩三夕・味噌三夕」であったことなどが記されている。また185・187はこの時出張した藩士の氏名・従卒の員数が記

されている。

212-218の宇倍神社関係の資料は、明治前期の因幡国一宮宇倍神社の状況を伝える資料である。安処は宮司として宇倍神社の発展に尽くしているが、212は拝殿他境内の諸施設の整備、官幣大社への昇格などの願書を綴ったもので、安処の努力が具体的にわかる。また、216は西橋景貞が描いた宇倍神社境内図を木版印刷したもので、当時の景観を示す貴重な資料である。

219共立学舎への論告は、かつての鳥取藩主池田慶徳が、鳥取士族が設立した共立学舎(社)に宛てたもので、当時その社長であった角田安処の元に残されたものである。共立学舎は、明治七年(一八七四)に旧鳥取藩士の教育を目的として設立されたが、設立当初から新政府に不満を持つ士族の政治結社的な色彩を帯びていた。この資料は、共立学舎の設立を援助した池田慶徳が、設立時の本来の目的をはずれて社内に対立を深めつつあった状況を諫めたものである。

220・221は、明治一四年の鳥取県再置にあたり、県令に伊集院兼善を任命するよう内務卿松方正義に建議したものである。伊集院兼善は鹿兒島藩士で、鳥根県併合前の鳥取県参事を勤め、当時県令が置かれなかったため事実上県令の役割を果たした人物である。この建白が実際に提出されたかどうかは不明ながら、安処と伊集院の関係がうかがえ、興味深い。安処の希望は実現せず、鳥取県令には山田信道が就任している。

3 書状 は、安処宛のものとは、禮基宛のものがほとんどである。安処宛のものは、田村貞彦・河田景与ら鳥取藩政上の重要人物からの手紙が含まれている。これらについては今後さらに分析が必要であるが、記載された内容は儀礼的なことが多く、政治的な事項についてはほとんど触れられていない。しかし、幕末・明治維新期の鳥取藩内の人

の写。かつて藩主池田家が所蔵していたもので、それを何らかの目的で筆写したものである。

以上、簡単に資料の全体像と重要な資料について解説した。角田家はとりわけ幕末維新时期において重要な役割を果たしており、この資料群が鳥取県にとって貴重な資料であることはまちがいない。この報告書の刊行によって、多くの人々に資料が利用され、鳥取県の歴史研究が進展することを期待したい。

間関係をうかがうことができる資料と言える。

4 武道関係 には、歴代の武道伝書類が含まれている。

とりわけ、七代又右衛門と一〇代安処に関わるものが多く、七代又右衛門は剣術・槍術・弓術・砲術など幅広く学んでいる。一〇代安処では、荻野流砲術の資料がまとまっている。鳥取藩の砲術は、寛永一五年(一六四二)武宮流の武宮貞親が五〇〇石で召し抱えられて以後、同家に代々伝えられ、藩の砲術にたずさわるものは武宮氏の配下に置かれていた。幕末に至り、実戦的な砲術の必要から、嘉永年間に高島流の山口登、荻野流の荻野隼人が召し抱えられた。この両流は西洋流砲術を取り入れた砲術であった。その後神流砲術が水戸藩から取り入れられ、幕末の鳥取藩では四流の砲術が行われた。しかし、これらの砲術に関する資料は今までほとんど知られておらず、角田家資料の荻野流の伝書類は貴重な資料と言える。安処はその他にも、一貫流の剣術、大坪流の馬術を学び、兵法についても津田伝兵衛(伝蔵・優也)から学んでいることが、ここに残された資料からわかる。

5 書画等 は、点数は少ないが、興味深い資料が含まれている。

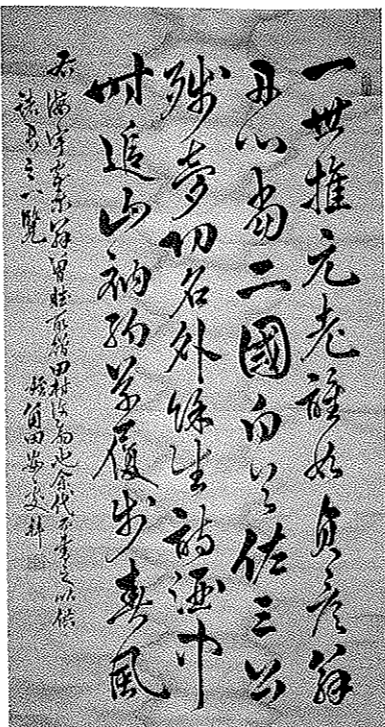
380角田安処書は、伯父田村貞彦に代わって、鳥取藩士で維新後高山県権知事・福島県令などを務めた宮原積に宛てて書いた書で、安処・貞彦・積の親密な関係を伝える。

381堀照明(庄二郎)書は、安処の号である大受楼の名の由来を説いたもの。庄二郎の安処に対する期待がうかがわれる。また合装されている湯本文彦は、同じく鳥取藩士で、後に『平安通史』『鳥取藩史』などを編纂した歴史家。いずれの人物も、多くの書は知られておらず、珍しい資料と言える。

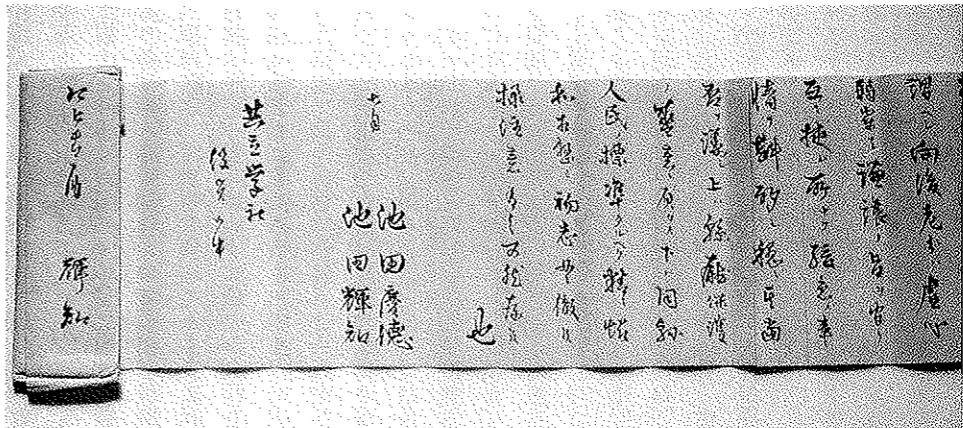
382後三年絵巻写は、現在東京国立博物館に収蔵されている重要文化財



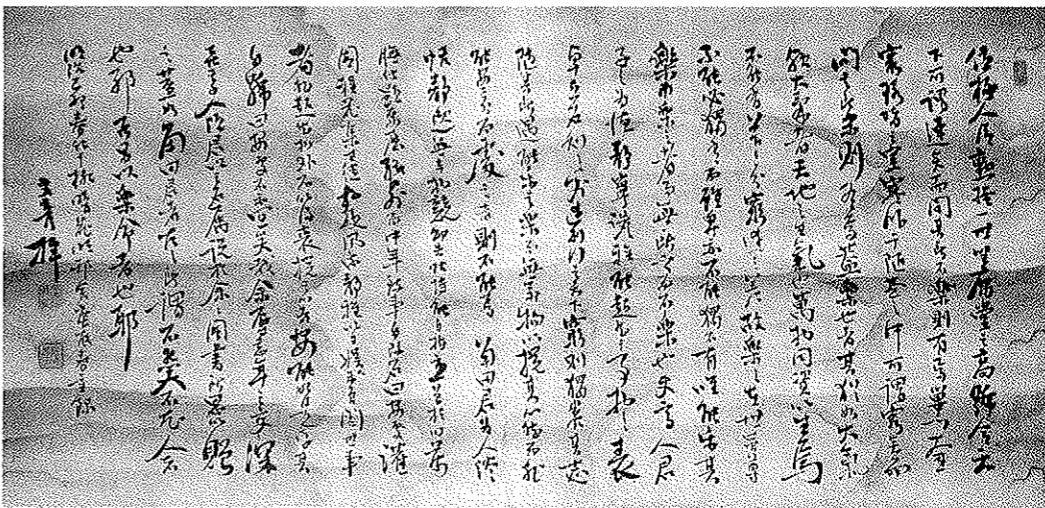
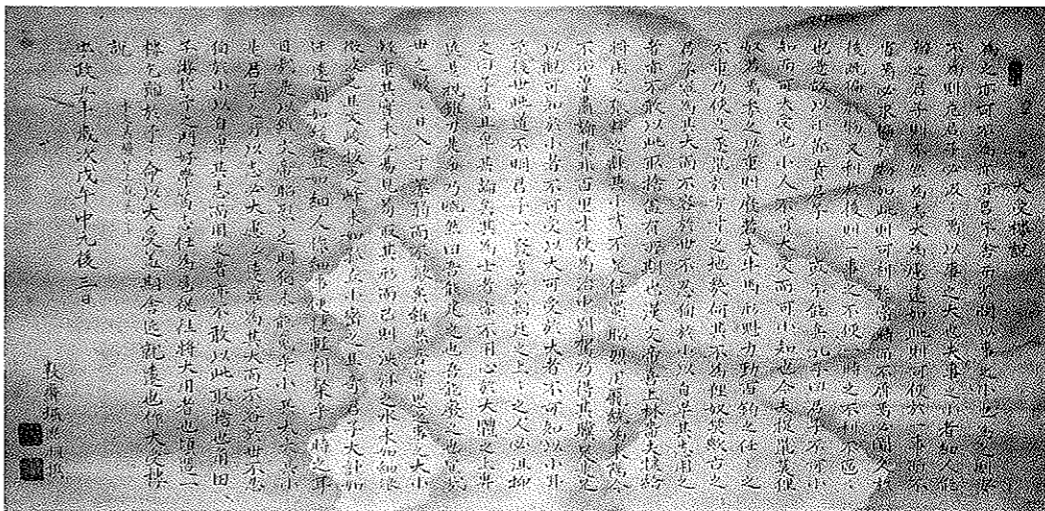
383 肖像写真(角田安処か)



380 角田安処書



219 共立学舎への論告(部分)



381 堀熙明書「大受楼説」湯本文彦書合装

あとがき

「旧鳥取藩士角田家文書」は、平成六年二月に宮津市在住の角田阿つ子氏より当館が寄贈を受けた資料群である。寄贈者の角田氏は、角田家の二一代禮基の孫禮尚氏の夫人である。貴重な資料を御寄贈いただいた角田氏に、改めて感謝申し上げます次第である。

資料の点数も多く、また多岐にわたっていることもあって、それぞれについて十分な調査を行っていないが、とりあえず報告書を刊行して多くの人に利用いただき、本資料についての調査研究をさらに進めたいものと考えている。

なお、目録の作成および本報告書の執筆は、学芸課人文係学芸員坂本敬司が行った。

平成七年度

資料調査報告書 第二十三集

—— 旧鳥取藩土角田家文書 ——

平成八年三月三十一日 発行

鳥取県立博物館

鳥取市東町二丁目一二四

電話 〇八五七―二六―八〇四二